

# 汎用的教育コンテンツ利用実績紹介フォーム

## 1. 利用情報

教育機関名	国立大学法人 九州工業大学		
学部・学科名	情報工学部 機械情報工学科		
コース名・講座名等	機械情報基礎(学部1年)、機械情報プロジェクトII(学部3年) (講義全体のうち一部のコマにおいて利用)		
対象学年・受講者数	学部 1, 3 年次	計 179 名	(講座等の履修登録者数を記載してください)
講座実施期間	2014 年	4 月 ~	2014 年 4 月
利用コンテンツ名 (該当口をプルダウンで■にしてください)	<input type="checkbox"/> プロジェクト型システム開発チーム演習教育コンテンツ		
	<input checked="" type="checkbox"/> パーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成教育コンテンツ		
	<input type="checkbox"/> ソフトウェア開発技法実践的演習教育コンテンツ		
	<input type="checkbox"/> 情報セキュリティ実践的教育コンテンツ		
	<input type="checkbox"/> 「要求工学を活用した問題発見と情報システムによる解決」実践的教育コンテンツ		
コンテンツの利用形態 (該当口をプルダウンで■にし、必要事項をご記入ください)	<b>1. 利用したコンテンツ</b>		
	<input type="checkbox"/> ①シラバス	<input type="checkbox"/> ⑥テスト問題と解答例	
	<input checked="" type="checkbox"/> ②講義スライド	<input type="checkbox"/> ⑦ティーチングガイド	
	<input type="checkbox"/> ③講義ノート	<input type="checkbox"/> ⑧受講レポート	
	<input checked="" type="checkbox"/> ④演習課題	<input type="checkbox"/> ⑨ソースコード	
	<input type="checkbox"/> ⑤各種設計書		
	<b>2. コンテンツの利用方法について</b>		
	<input type="checkbox"/> 1.教育コンテンツ全てをそのまま利用		
	<input type="checkbox"/> 2.教育コンテンツの一部をそのまま利用		
	(利用範囲)		
<input checked="" type="checkbox"/> 3.教育コンテンツを改変して利用			
(改変範囲)	「パーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成 第1, 4回		
<b>講座の全体構成(シラバス) ※単元ごとの学習項目、講義形態、コンテンツ利用の有無を記す</b>			
	単元と時間配分(1コマ= 90 分で実施)	プルダウンで該当項目を選択してください	
	* 短期集中講座の場合は、日単位で結構です	<b>講義形態</b> (座学、個人演習、チーム演習)	単元でのコンテンツ利用の有無
1	「パーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成 第1, 4回 (講義とチーム演習)	チーム演習	有
特記事項			

コンテンツ利用の狙い・目的	目的:ロジカルシンキングの考え方・ツールを意識しながらグループワークを行うことで、各学生が、それぞれの論理的な考え方を自ら習得・構築していくきっかけを提供すること。
講座の位置づけ 学生の履修前提条件	位置づけ:プロジェクト・ベースド・ラーニング形式の講義において、与えられた課題に対する作業等を1,3年生合同で行っていくのに先立ち、ロジカルシンキングの考え方・ツールを意識しながら数種類のグループワークを行うきっかけを与える位置づけ。学生の履修前提条件:必修科目の一部のコマで実施のため、特になし
授業の進め方	行ってもらおうグループワーク・演習課題に関わる内容の全体講義(座学)を実施した後、予め教員の方で決めておいた名簿に従って作成した1,3年生の混成グループごとに、時間を区切りながらグループワーク・演習課題を行ってもらおう流れで実施。
産学連携で実施した場合の 企業支援内容 (該当の場合のみ)	産学連携はなし

## 2. 講座実施後の情報

受講者の感想 (本講座で得られたもの)	1,3年生合同でグループワークを行うことを通して、楽しみながら、論理的思考法についても実践的に学べたので、非常に良かった。日頃あまり考えることがない「論理的思考法」について改めて学び直すことができて良かった。
教員の評価	多くの学生が楽しく積極的にグループワークに取り組むことができた点は、良かったと考えている。
今後の展望 (継続に向けた課題)	グループワーク時に役割分担などが不十分で、議論があまり盛り上がっていないグループも少ないながら見られたため、そのような場合に、教員やティーチングアシスタントが、ファシリテーターとしてどの程度、議論を盛り上げる役を行うかについて、ファシリテーター間で意見の同意を取る必要があると考えられた。(次回の実施時の課題)
その他(ご意見等)	